



4月12日から

高齢者ワクチン接種 順次開始！

新型コロナワクチン接種計画（政府の想定）※今後、変更となる可能性があります。

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

2月17日 接種開始

先行接種
約4万人

高齢者向けのワクチン接種券 順次郵送

高齢者（65歳以上）
約3600万人

7月23日
東京オリンピック開会式

6月末 供給完了見込み

3月第1週 接種開始

医療従事者
約480万人

5月前半
供給完了見込み

（接種開始時期未定）

基礎疾患 約820万人

高齢者施設 従事者など 約200万人

（ワクチンの供給量が充分なら）

60～64歳の人 約750万人

一般の人（実施日時未定）
来年の2月末までに完了できる？

高齢者向けワクチン接種について、4月12日から、65歳以上の高齢者への接種開始を順次スタート。接種券（クーポン券）郵送を段階的に始め、政府は、計2回の接種を3カ月以内に終える目標を掲げているが、ワクチン等の調達状況を見ながら、ワクチン配布スケジュールを決定していくとしている。

高齢者向けワクチン接種 4月は限定的..

東京都 ワクチン配布スケジュール

※今後、変更となる可能性があります。

4月5日の週	12日の週		19日の週		26日の週
1950回分ずつ	1950回分ずつ		1950回分ずつ		975回分ずつ
八王子市 世田谷区	足立区 大田区 練馬区 江戸川区 板橋区	杉並区 町田市 府中市 調布市 西東京市	葛飾区 江東区 北区 品川区 中野区	新宿区 墨田区 日野市 立川市 小平市	全62区市町村 に分配

「高齢者の人口が多い区市町村」を優先

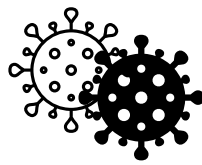
新型コロナワクチンについて

一般的にワクチン接種では、副反応による健康被害（病気になったり、障害が残ったりすること）が、極めてまれであるものの、避けられないことから救済制度が設けられています。

新型コロナワクチン接種についても、健康被害が生じて医療機関での治療が必要になったり、障害が残った場合に、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられます。

気になる

今週の注目トピックス



日本のワクチン接種スケジュールは？

2月17日からスタートしたのは、国立病院などの約100施設、4万人の医療従事者。

うち2万人は継続的に観察日誌をつけ、接種の安全性を確認。

1回目の接種後の3週間後に2回目の接種を行ない、その後3週間の経過を調査。

その後、医療従事者470万人に3月から接種し、高齢者(65歳以上)は4月から接種を開始。

高齢者は約3,600万人が対象で、その前に高齢者向けのクーポンを配布する。

高齢者の接種を進めながら、基礎疾患を有する人や、高齢者施設等の従事者、60～64歳の人の接種も進める計画。

接種回数と接種の方法は？

ファイザー社のワクチンは、2回の接種が必要。

1回目の接種から3週間後に2回目の接種。

三角筋(上腕の筋肉)に筋肉内注射という方法で接種。接種費用は全額公費負担のため「無料」。

高齢者向けワクチン接種「4月は限定的」

先月、河野ワクチン担当相は「4月から高齢者向けを開始するが、残念ながら割り当てられるワクチンが当初は非常に限られる」と説明した。

4月まで米ファイザー社ワクチンの供給量が限られるほか、先行して接種する医療従事者の数が当初想定より膨らむ点を理由に挙げた。

政府は、高齢者向けの接種について「2カ月と3週間で終わる」との想定を示してきているが、都市部では高齢者の接種完了時期が遅れる可能性は否定できない。

副反応のリスクは？

50%以上で接種部位の痛み、披露、頭痛などの症状が発生する場合があります、10～50%で筋肉痛や悪寒、関節痛、下痢、発熱などの可能性があるとする。ただし、大部分は接種後、数日以内に回復するという。

また、疲労や関節痛、発熱などは、1回目より2回目のほうが頻度が高くなるという。

接種当日の服装について

半袖の上に上着を羽織るなど、肩の出しやすい服装でお越しください。